

構想会議等によるこれまでの検討経過

1. 第1回高田松原地区震災復興祈念公園構想会議の概要
2. 地元代表との意見交換会の概要
3. 陸前高田市民フォーラム（第2回高田松原地区震災復興祈念公園構想会議）の概要
4. 高田松原地区震災復興祈念公園構想に関する意見募集結果の概要
5. 国の平成25年度予算概算要求の概要

1. 第1回高田松原地区震災復興祈念公園構想会議の概要

●開催日時

平成24年7月3日(火)

15:00～17:15

●開催場所

マリオス18階183会議室
(盛岡市内)



写真：第1回高田松原地区震災復興祈念公園構想会議

● 論点とキーワード

【論点1】津波防災文化の醸成と継承

【キーワード】

- ① 津波常襲地帯の防災文化の継承
- ② 自然の再生力を学ぶ場の創造
- ③ 被災の記録、遺構の保存及び教訓の継承
- ④ 防災研究の拠点化
- ⑤ 未来を担う子どもたちへの津波防災教育

【論点2】陸前高田における震災復興祈念公園の意義

【キーワード】

- ① 350年の歴史をもつ高田松原の再生
- ② 国内外から注目を浴びる一本松の保存
- ③ 市民活動の歴史を継承する協働の公園づくり

2. 地元代表との意見交換会の概要

- 開催日時
平成24年7月31日(火)
13:00～15:00
- 開催場所
陸前高田市役所4号棟
第6会議室



写真：地元代表との意見交換会

- ① 市民の皆さんが公園と、どのように関わっていくことが出来るか？
あるいは、関わる必要があると考えるか？

これまでの公園への市民の関わり方
～松原を守ってきた歴史・経験～

松原を守って
きたことが重要

松原の
パトロール

松原を
守るために

パトロールにより
守ってきた
みんなで努力
してきた

↓
守られてきた

野球場ナイター
の高さについて
議論

これからの公園への市民の関わり方
～創る・再生する段階から市民が関わる～

このような
意見交換の場を
もっと！！

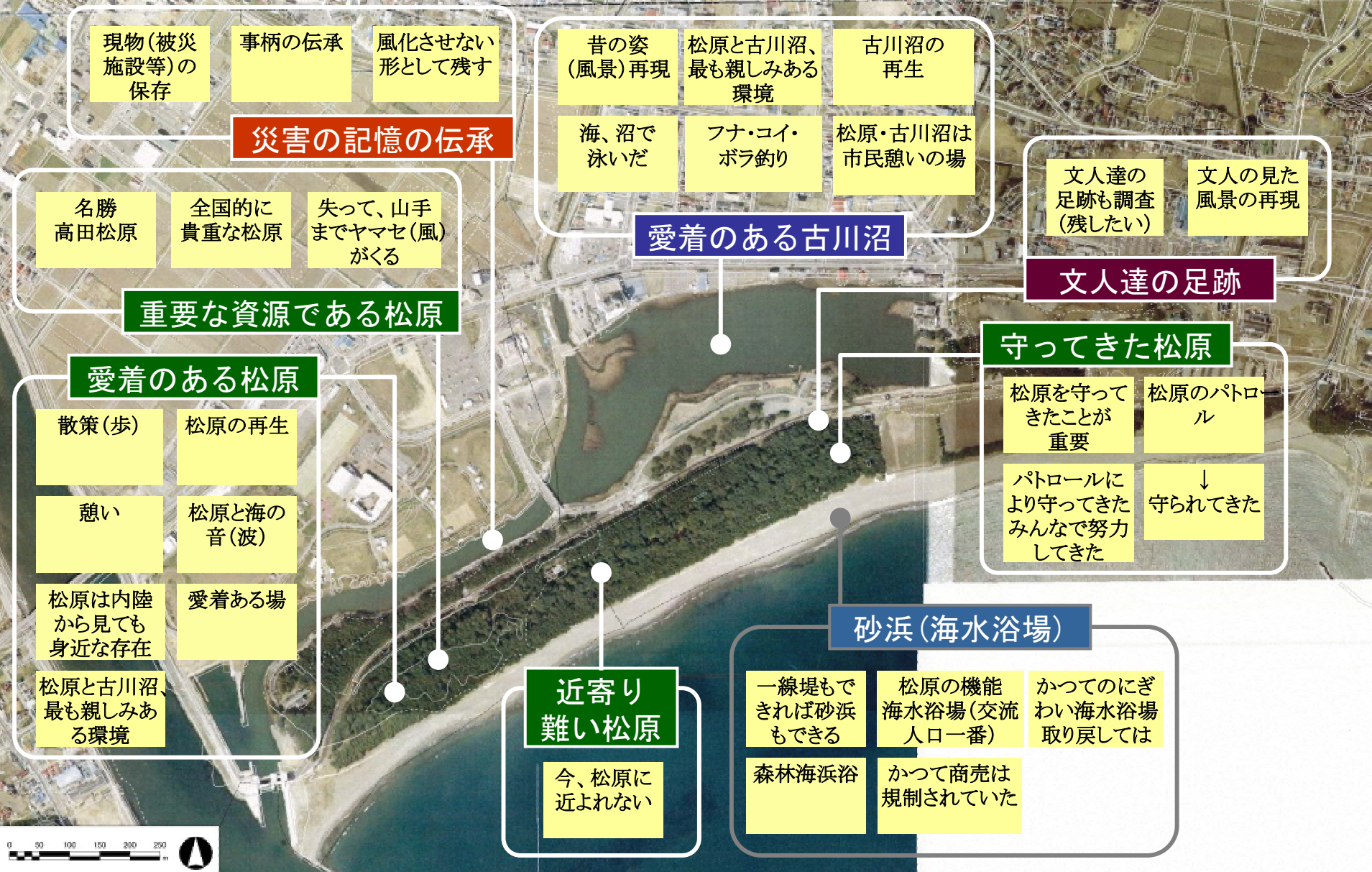
再生の過程から
関われる形

公園のとりまとめ
事業コンペで
市民が選ぶ

再生と接するこ
とができる取組

2. 地元代表との意見交換会の概要

②どのような公園にしたいか？（保全もしくは再生したいもの）



2. 地元代表との意見交換会の概要

③どのような公園にしたいか？（新たに創出したいもの）

命（いのち）

“命は何？”
と問うことが
重要

コンセプト
『命（いのち）』

『命（いのち）』
とは何か？

「防災」をテーマとしたまちづくり

防災でNo.1
のまち

元々防災意識
の高いまち

売り
→防災訓練
体験

防災と観光

観光としての
防災訓練

防災都市
（産業の観点も）

災害の記憶の伝承

大津波を
いかに伝えるか

公園コンセプト
“大津波”を
未来へ伝える

安心できる環境

安心して生活
できる環境

高齢者&障
害者
憩いの場

自然・環境等の活用（教育等）

自然の生命を
学ぶ場

（自然・環境等）
教育の場

公園を起点と
して新しいもの
を創造

→新しいものを
うみだせる

犠牲者への追悼・鎮魂の場

追悼・鎮魂の場

津波で亡くなら
れた人の数の
桜植樹

古川沼周辺に
サクラ・ツバキ
植樹

公園等と連携した地域の活性化

アート

パラリンピック
会場（活性化）
へつながる

定住・交流人口を増やす施設

教育関係者
宿泊施設

定住人口の
増大

定住人口増
教育、研究
の場

交流人口↑

教育拠点
（宿泊も）

定住人口↑

3. 陸前高田市民フォーラム（第2回高田松原地区震災復興祈念公園構想会議）の概要

●開催日時

平成24年9月2日（日）
13:30～15:40

●開催場所

陸前高田市役所4号棟
第6会議室

●主な意見



写真：陸前高田市民フォーラム

・継続的な意見交換の場の確保

- ・市民にも来訪者にも「開かれた公園」にするためには、市民参加の場をどれだけ重ねていけるかが重要。
- ・100年、1000年先を見据えて、今後も市民が公園について話し合える場を設けていくことが必要。 など

・災害遺構の保全

- ・過去の大津波被害の際に被災遺構を残してこなかったため伝えるべきことが伝わらなかったのではないかなど
- ・「物言わぬ語り部」として、市内に残る被災建物を災害遺構として保存するべき。 など

・公園整備の目的の明確化

- ・「いのち」というキーワードを踏まえれば、被災した建造物の保全の検討につながっていくのではないかなど
- ・コンセプトを明確にして、既成の公園という概念を取り払い、ごった煮のような施設を寄せ集めた公園にならぬようにする必要がある。 など

3. 陸前高田市民フォーラム（第2回高田松原地区震災復興祈念公園構想会議）の概要

・慣れ親しんだ風景の再生

- ・ 松原と古川沼を元通りに再生し、被災前の見慣れた美しい景観を取り戻したい。
- ・ 復興が進むにつれて失われる景観もあるが、慣れ親しんだ景色や記憶を再現することは重要

など

・安全性の検証・確保

- ・ 防災マップや避難場所などについてしっかりと検証してほしい。
- ・ 公園利用者の避難場所をつくり、安全確保を図る必要がある。

など

・市民参加による公園の整備・維持管理

- ・ 松原の苗を市民が植え、継続的に育てていくことは、「いのちをつなげる」という意味で非常に重要。
- ・ 公園づくりに市民がどれだけ関わったかが、将来の公園管理の市民参加にもつながっていく。

など

・100年後まで伝える工夫

- ・ 100 年後にどう伝えられるかが求めてられており、皆で知恵を出して難しいハードルを越えていかなければ、あっという間に忘れられてしまう場所になる。
- ・ 公園を一気に完成させることもあるだろうが、100 年くらいかけてつくっていく、育てていくという考えもあるのではないかな。

など

・教育・伝承のための施設整備

- ・ 発災時の様子、行動を疑似体験できる施設（映像システムなど）を備えた資料館を考えてほしい。
- ・ 公園整備をきっかけに、後世に語り継ぐための施設についても継続的な議論が必要である。

など

4. 高田松原地区震災復興祈念公園構想に関する意見募集結果の概要

●意見募集期間／募集方法

平成24年9月2日(日)～10月1日(月) ／ 郵送、FAX、電子メール、窓口受付 など

●意見の件数

4件(5名[1件は連名による意見])

●主な意見

・震災遺構の保全による記憶の継承

- ・被災の遺構を残すことはとても意義深いことであり、今回の震災の教訓を語り継ぐためには「被災遺構」と「経験を伝える人」の両方が必要と感じている。
- ・市内に残る被災建物は、国営メモリアル公園の構想と併せ、市民の声を聴きながら再考すべきと考える。
- ・市民の方々の声を記録する活動を通じ、市街地に残る震災遺構については残す方が良いと思っている。
- ・震災遺構の保全に関しては、国の予算の限界や土地の価格の問題など外部のスピードで決めず、もう少し、考える時間と話し合う開かれた場が必要と考える。 など

・安全・安心の確保

- ・「安全・安心」が担保されていないと公園を利用する人は減ってしまう。
- ・「安全・安心」をどう守っていくか、構想の初期段階から様々な立場の方の意見を聞く方が良い。 など

・市民参加による公園の整備・維持管理

- ・神戸震災復興祈念公園の市民ボランティアの経験からも、公園の運営・管理に市民が継続して関与するためには、構想の初期段階から参加の方法を考えておく必要があると考える。 など

4. 高田松原地区震災復興祈念公園構想に関する意見募集結果の概要

・交流や活躍の場の形成

- ・公園利用者に「笑顔」や「新しいつながり」を生み出せるような役割が求められる。
- ・公園が高齢者の「活躍の場」、子供たちの「成長の場」でもあることを意識すると真の復興につながるのではないかと考える。
など

・アートによる地域振興

- ・震災復興祈念公園、商業施設が一体化した両地域を建築美術を活用した「アートゾーン」とし、これからの復興の起爆剤にしたい。
- ・国内外の建築家にボランティアとして協力を得て、地元の商業施設づくりにあたって各々デザインを担当して頂く。
など

5. 国の平成25年度予算概算要求の概要

● 平成24年9月7日

復興庁の平成25年度予算概算要求において、復興祈念施設に係る概算要求の内容が以下のとおり示された。

「復興庁 平成25年度予算概算要求概要」資料から抜粋

（４）復興祈念施設基本構想検討調査費 0.6 億円

東日本大震災は広域にわたり甚大な被害が生じた未曾有の大災害であることに鑑み、国が地方と連携して、犠牲者への追悼と鎮魂や、日本の再生に向けた復興への強い意志を国内外に向けて明確に示すこと等を目的とした、復興の象徴となる森や丘等（復興祈念施設）を整備するための基本構想の作成に向けた検討・調査を実施。